



東名・新東名高速道路の昨今

中日本高速道路株式会社
代表取締役社長CEO 宮池 克人

今から48年前、昭和44年5月26日、東名高速道路(東名)が全通し、すでに供用していた名神高速道路(名神)とあわせ、東京・名古屋・大阪が高速道路で結ばれました。その後、東名の利用交通量は、開通当初の3倍以上にふくれあがり、渋滞の解消・定時走行の確保、事故・災害に強い高速道路ダブルネットワークの形成をめざし、新東名高速道路(新東名)の建設が進められました。すでに、豊田東JCTから御殿場JCTの区間は供用され、並行する東名の慢性的な渋滞は、ほぼ解消、渋滞に起因する事故も減少しました。

人の移動、物流に関し、定時性・生産性が向上、両高速道路沿線の工場立地が増加しており、静岡県内では、平成28年の工場立地件数は、新東名開通前の平成23年に比べ約2倍となっています。残る御殿場JCT以东、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の海老名南JCTまでの区間は、平成32年度の開通をめざし、工事を進めています。

一方で48年という歳月を経て、道路の老朽化が進んでいます。日本の物流の大動脈として大型貨物の集中する厳しい使用環境に加え、過積載車両の通行や冬期の凍結防止剤(塩)の散布は、老朽化を加速、日常の小規模な補修では、今後、安全に道路を利用できなくなる心配が出ています。

お客様に安心してご利用いただける高速道路をご提供するため、日常の点検・補修の強化に加え、東名をはじめ名神・中央道・北陸道などで「リニューアル工事」を始めています。この工事は、橋やトンネルなどで2~3カ月にわたり車線の規制を行って進めて参ります。ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

新東名は、走りやすくなったというご意見をいただきます。山間部を通過していますが、トンネルや橋の建設技術の向上で、道路のカーブや勾配が緩やかに造られており、御殿場JCTから浜松いなさJCT間は、時速120kmでも安全に走行できるように設計されています。警察庁と静岡県警では、最高速度を時速100kmから110kmに引き上げる試行を新静岡ICから森掛川IC(約50km)の区間で行うこととされており、今、そのための準備を進めています。この試行結果を検証のうえ、時速120km導入の可否について検討される予定です。

また、官民あげて車の自動運転の取り組みが進んでいますが、自動運転の実証実験が東名・新東名などで行われるほか、電子連結されたトラックの隊列走行実証プロジェクトが、新東名で来年早々からスタートする予定です。自動運転は、車側と道路側の協力があって成立します。東名・新東名は、将来の高速道路の実証フィールドでもあります。